

一時帰郷の情報発信レポート

5

◆宮城県

2年振りに地元、宮城に帰りました。行きはフェリーでした。仙台新港の1階部分は津波被害があった場所でしたが、周辺はだいぶ震災前のように活気づいていました。帰りは仙台空港から飛行機でしたが、まわりの道路や一般住宅街は雑然として復興の遅さを感じました。

久々に帰省せずと会えなかった友人や知人、お世話になった人に会うことが出来ました。皆さん前を向いて日々生活を送っていました。ただ、その中でも不安や経済の心配をする方がいらっやいました。復興の遅さに不安が増しているように感じました。今回帰省した実家も壁にはまだヒビがはいっており、柱も崩れており窓ガラスも壊れたままでした。元に戻るには、もう少し時間がかかりそうです。なかなか帰れないでいましたが、今回は帰れることが出来て地元の状況を見ることができました。ご支援いただきありがとうございます。

◆宮城県

約4年振りに帰省してきました。家が流されたので、ホテル5日間、姉の家に2日間お世話になり、主人の墓参りをし、義理兄弟、親戚、友人に会うことが出来ました。

仮設住宅に住む親戚は津波で奥さんを亡くし、病気で弟を亡くし、母親は闘病生活で2年後に亡くなり、子ども4人かかえて大変そうでした。

近くに住んでいた友人は2度目の家を新

築して老後は安心、のほろが津波で住めなくなりました。そこには大公園ができるので、土地を安く売って、ローンを清算したそうです。復興住宅に応募すると所得の関係で家賃が高くなりそうなので、建売の住宅をローンで買った親戚もあります。

私の住んでいた所に行ってみると草がぼうぼうに生え、荒地でした。

今回の帰省では、いろいろ悩みも違うけど前向きでがんばろう!と思いました。

石巻の復興住宅が進んでいるようです。また何年か後に帰った時が楽しみです。

◆福島県

久しぶりの地元は変わっていないように見えますが、車で走ればいたる所に除染で出た土などの仮置場があり、シートでおおわれていました。

田舎にある実家は木々に囲まれていてとてもどかな所でした。自宅に行く道のまわりの木々は除染のために全て切ったとのこと。まだ小さい子を連れての帰省なので、除染済だったことはとても安心できました。風あたりが強くなって困ったとは言っていましたが、実家の線量が少しでも下がり、遠く離れた私の心配も少しは減りました。

除染前と除染後の測定数値を見せてもらい、除染前の数値におどろきました。一番高い所で1.5 μ Sv/hほどでした。震災前の何倍の数値でしょうか。そのような現実を目の当たりにし、自主避難を終えて福島に戻ることはやはり不安しか残りません。しか

し、久しぶりに会う家族や友人、親戚などとの楽しい時間。別れ際に見せた我が子の涙。『じいちゃん、ばあちゃんと暮らしたい。』その思いがとても胸に刺さりました。戻る不安と今の生活と…。課題はなくなりません。でも、お正月を親兄弟と過ごして楽しい思い出ができました。

◆福島県

福島県須賀川市から私共夫婦と娘、孫2人の5人で避難してから3年が経ちます。上の孫が小学校に今春入学し、父親との別居生活を解消せねばと、家探しに須賀川に帰省してきました。須賀川市は福島県内でも地震の被害が大きく、我家も全壊でした。そのせいでしょうか。町の中には所々大きな空地が点在しており、駐車場として整備している所もあれば、更地のままになっている所もあり、地震の影響がまだまだ残されている感じがしました。人通りもまばらで、子どもの姿があまり見受けられないのも放射能の影響かなと、気になりました。

震災後の1～2年は不動産売買も活発な時期があったと聞きましたが、今は取引のための物件があまりなく、住むのに適当な中古住宅が見つからず途方に暮れて札幌に帰って来ました。こうして離れている所から新たな住み家を見つけることがいかに困難か痛切に感じています。遅々して進まぬ復興住宅も、地元の仮設住宅に住んでいる人が優先的とも聞いてきました。孫の学校のこともあり、戻るタイミングを大きくずらすこともできずに苦しい状況に置かれています。

久しぶりに長い間生活をしてきた福島の

空気に触れ、懐かしさとともにやはり帰る場所はここなのか…という望郷の念を強くした一時帰郷でした。

◆福島県

娘の夏休みを利用し8月4日から2泊3日の日程で、避難元の会津若松市へ帰ってきました。

友人によると会津は『非被災地宣言』をしているということで、その話の通り『八重の桜』を中心に町おこしや地域の活性化に力を入れており、とても盛り上がっているという印象を受けました。

市内の病院事情はというと、3年前には既に建て替えられていた会津中央病院では新たな工事が始められていましたし、竹田総合病院は新しいビルが完成したばかりで、旧病棟を取り壊した跡地を造成しているところでした。鶴ヶ城のすぐ側にあった県立会津総合病院は中心部から少し離れた場所に移設され、福島県立医科大学会津医療センター附属病院として近代的な建物に生まれ変わっていました。街中には子どもたちの屋内遊び場も作られており、震災から3年以上を経て変わりゆく故郷の様子には複雑な思いを抱かずにはいられません。

4年振りの会津は凄まじい暑さで、すっかり北海道の夏に慣れてしまった体には厳しいものでしたが、空の青は濃く山の緑も美しい、色彩豊かな自然の素晴らしい場所だと改めて感じました。

会津若松市が宣言通り、本当に非被災地であることを心から願います。